

令和7年度 姉妹都市交換学生事業報告書



派遣学生作成
コーパスクリスティ市
紹介動画



派遣学生作成
メッドウェイ市
紹介動画



派遣学生作成
ブレスト市
紹介動画



横 須 賀 市
(運営 NP0 法人横須賀国際交流協会)

目 次

1	姉妹都市交換学生事業の概要	1
2	姉妹都市の紹介	2
3	交換学生受け入れ事業	3
(1)	姉妹都市からの受け入れ学生	3
(2)	受け入れ日程	4
(3)	受け入れ行事	5
(4)	受け入れ学生の感想文	9
4	交換学生派遣事業	15
(1)	姉妹都市への派遣学生	15
(2)	研修・派遣日程	16
(3)	研修	17
(4)	派遣学生報告書	20

1 姉妹都市交換学生事業の概要

(1) 目的

本市の高校生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市やその国々との相互理解と友好関係を深めることを目的としています。

(2) 内容

毎年、7月から8月の約2週間、横須賀市は各姉妹都市に高校生を派遣し、また姉妹都市からも高校生を受け入れています。令和7年度は、コーパスクリスティ市（アメリカ）、ブレスト市（フランス）、メッドウェイ市（イギリス）との間で相互派遣・受け入れを行いました。

◎派遣学生について

- ・横須賀市の親善大使として、横須賀や日本の文化・魅力を各姉妹都市に発信します。同時に姉妹都市の文化・魅力を学び、横須賀市民に伝えます。
- ・派遣前の研修では、英会話だけでなく、日本の文化や横須賀の観光スポットを学ぶことで、姉妹都市で日本や横須賀を紹介するための知識・技能を習得します。
- ・姉妹都市からの受け入れ学生が横須賀に滞在している間、市内見学や日本文化体験などの受け入れ行事に案内役として参加します。
- ・派遣先では、ホームステイをしながら、市長表敬などの公式行事や現地の高校生との交流イベントなどに参加します。
- ・帰国後、派遣学生としての体験を報告書や動画にまとめます。

◎受け入れ学生について

- ・市内の家庭でホームステイをし、自国の文化や姉妹都市の魅力を横須賀市民に伝えます。
- ・ホームステイや受け入れ行事を通じて横須賀や日本の文化や魅力を姉妹都市へ持ち帰ります。

(3) これまでの経過

昭和42年（1967年）にコーパスクリスティ市と高校生の相互交換を開始して以来、令和7年（2025年）までに370名の派遣、342名の受け入れを実施しました。

2 姉妹都市の紹介

イギリス・メッドウェイ市

提携：1998年8月26日

（旧ジリングラム市と1982年4月8日に提携）

人口：約279,000人 面積：192km²

ロンドンの南東、メッドウェイ川下流に位置する産業・住宅都市。海軍造船の町として栄えたが、現在は、閉鎖された海軍施設跡に企業を誘致し発展。1998年4月1日、ジリングラム市とロチェスター市等が合併してメッドウェイ市となった。ジリングラム市は、航海術や造船技術をわが国に伝えた三浦按針（ウィリアム・アダムズ）の生誕地。

アメリカ・コーパスクリスティ市

提携：1962年10月18日

人口：約314,000人 面積：1,192km²

テキサス州のメキシコ湾沿岸にある港湾産業都市。石油、天然ガス、農産物、化学製品を産する。日本の貨物船もしばしば訪れる亜熱帯の避寒観光地。海軍航空訓練基地がある。ビーチリゾートとして知られるパドレ・アイランドの玄関口として、全米から避寒客、観光客が訪れている。テキサス州立水族館や空母レキシントン博物館がある。



フランス・ブレスト市

提携：1970年11月26日

人口：約140,000人 面積：50km²

ブルターニュ地方フィニステール県の主要都市。第2次世界大戦後、近代都市として復興した港湾産業都市。造船、情報処理産業、農業、漁業が盛んで、海軍基地や国立海洋科学研究所がある。横須賀製鉄所（造船所）の開設に貢献したフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが勤務していた海軍工廠がある。自転車レースで有名なパリ・ブレスト・パリの折り返し地点。

オーストラリア・フリマントル市

提携：1979年4月25日

人口：約34,000人 面積：19km²

パースの南西に位置する港湾都市。シドニー、アデレードに次ぐ港町。水産・羊毛加工品、家具などを産する。横須賀を母港とする南極観測船「しらせ」の補給港。西オーストラリア州で最初の刑務所であるフリマントル刑務所は、オーストラリア囚人遺跡群として2010年に世界遺産に登録された。

3 交換学生受け入れ事業

今年は姉妹都市から6名の高校生が横須賀市を訪れ、公式行事や受け入れ家庭との交流を楽しみ、友好を深めました。受け入れにあたっては、ホストファミリーだけでなく、横須賀から姉妹都市に派遣される高校生も案内役を務めました。

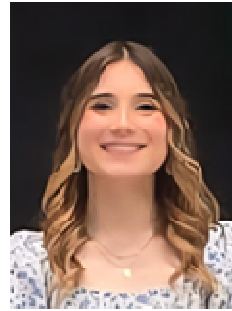
(1) 姉妹都市からの受け入れ学生

◎コーパスクリスティ市



ジリアン・ディクソン
Jillian DICKSON

[受け入れ家庭]
高橋ファミリー



ジェイミー・ゴヴェア
Jamie GOVEA

[受け入れ家庭]
竹内ファミリー

◎ブレスト市



ドレワン・マエ=カノヴァ
Drewann
MAHÉ CANOVAS

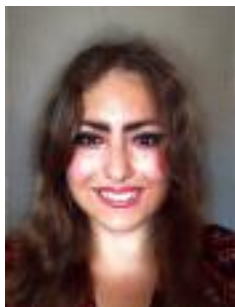
[受け入れ家庭]
大野ファミリー



ロラ・パコレ
Lola PACORET

[受け入れ家庭]
岡本ファミリー

◎メッドウェイ市



ヤスミン・トムリン
Yasmin TOMLIN

[受け入れ家庭]
夏莉ファミリー



イザベラ・ヒール
Isabella HEEL

[受け入れ家庭]
金子ファミリー

(2) 受け入れ日程

日程			コーパスクリスティ市高校生	
7月	6日	日	羽田着	
	7日	月	市立横須賀総合高等学校体験入学、市長表敬訪問	
	8日	火	市立横須賀総合高等学校体験入学	
	9日	水		
	10日	木	市内見学（横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー公園・記念館→ソレイユの丘）	
	11日	金	横浜見学	
	12日	土	受け入れ家庭行事	
	13日	日		
	14日	月	日本文化体験（日本語会話・着物）	
	15日	火	日本文化体験（書道・将棋・大正琴・三味線）	
	16日	水	市内見学（記念艦三笠、軍港めぐり、どぶ板散策）、正副議長表敬訪問	
	17日	木	鎌倉見学	
	18日	金	日本文化体験（折り紙）、お別れ会	
	19日	土	受け入れ家庭行事	
	20日	日	羽田発	
日程			ブレスト市高校生	メッドウェイ市高校生
7月	30日	水	羽田着	
	31日	木	日本語会話レッスン ヴェルニー公園見学、交流会	羽田着
8月	1日	金	市内見学（横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー公園・記念館→ソレイユの丘）	
	2日	土	受け入れ家庭行事	
	3日	日		
	4日	月	東京見学	
	5日	火	日本文化体験（日本語会話・書道・着物）、正副議長表敬訪問 国際ユースフォーラム準備	
	6日	水		浄土寺、塚山公園
			国際ユースフォーラム	
	7日	木	市長表敬訪問、鎌倉見学	
	8日	金	日本文化体験（大正琴・三味線・折り紙）、記念艦三笠見学、お別れ会	
	9日	土	受け入れ家庭行事	
	10日	日	受け入れ家庭行事	伊東市訪問、按針祭出席
	11日	月		
	12日	火	羽田発	日本文化体験（将棋）、交流会
	13日	水		羽田発

（３）受け入れ行事

◎市長、市議会正副議長表敬訪問と市議会議場見学

市長と市議会正副議長を表敬訪問しました。ブレスト市学生がホストファミリーと盆踊りに行ったことを話しました。市長から、盆踊りは、帰ってくる先祖の霊を迎え、供養し、送り出すという意味が込められていること、お盆に皆で集まって踊ることで、家族や地域の絆を深められるととてもいい風習であることを教わりました。



◎市立横須賀総合高等学校体験入学



コーパスクリスティ市の学生は、市立横須賀総合高校で３日間の体験入学をしました。同校の生徒とバディを組み、同じ制服を着て、英語、数学、歴史、美術、国際理解などの授業を受けました。すべて日本語なので理解できなかったのですが、バディや周りの学生たちが、英語で助けてくれました。３日間、バディたちと校内の食堂で昼食をとりました。アメリカの食堂は、冷めた食べ物ばかりですが、日本の学校は温かい食べ物が食べられる事がうらやましいと話していました。体験入学最終日は、交流会があり、多くの学生とゲームやおしゃべりをして友情を深めました。別れ際には、皆で写真をたくさん撮りハグし合いました。短い期間でしたが、充実した高校生活を経験しました。

◎横浜見学



最初に訪れた中華街では、たくさんの「食べ放題」の看板に学生たちは驚いていました。「どこで食べたらいいのか考えているうちに、ランチタイムが終わるね。」と笑っていました。その後、アトリックミュージアムに行きました。目の錯覚を利用したユニークなアートがあり、学生たちはいろいろな角度から写真を撮り、トリックを楽しみました。最後に訪れたのは、コーパスクリスティ市学生のリクエストで、アニマルカフェです。学生たちは、ハリネズミや、フェレット、カメレオンなどに触れ、癒されていました。獣医志望のジリアンは、特に興味津々で、観察したり写真を撮ったりしていました。

◎日本文化体験参加



横須賀国際交流協会のボランティアの協力を得て、日本文化を体験しました。着付けでは、初めての着物に大満足。結ってもらった髪型が気に入って、そのまま帰りたいとリクエストして、アップしたまま帰りました。書道や将棋では派遣学生が講師となり、教えました。三味線・大正琴は、何度も何度も練習し、全員で「さくらさくら」を弾けるようになりました。折り紙体験では、お土産にできる傘、しおり、カードなどたくさんの種類からそれぞれ好きなものを選んで折り方を教わりました。折り終わった後には、いろいろな折り紙の作品をお土産にもらい、皆、大喜びでした。

◎東京見学



最初に、浅草文化観光センターの屋上に行きました。ここからは、浅草が一望でき、スカイツリーの外観も見ることができると、外国人観光客で混み合っていました。浅草寺の常香炉では、煙を頭かけると賢くなるという言い伝えを聞き、頭に煙を引き寄せて「頭がよくなりますように。」と祈っていました。

スカイツリー展望台では、あまりの高さに足をすくませながらも、絶景を目の前に皆、たくさん写真を撮っていました。



◎市内見学

(横須賀市自然・人文博物館→観音埼灯台→横須賀美術館→ペリー公園→ソレイユの丘)



受け入れ学生は、派遣学生によるガイドの説明に真剣に耳を傾け、横須賀市の観光スポットに興味深く見学していました。中でも、受け入れ学生たちの出身都市とゆかりのある横須賀市で活躍した偉人については、改めて学び直す機会となり、歴史にも関心を深めながら、記念に多くの写真を撮っていました。

◎お別れ会

最後はカラオケボックスでお別れ会をしました。全員で一緒に歌って盛り上がりました。最後の交流にさびしさも感じながらそれぞれの思いを歌に込めていました。



◎国際ユースフォーラム

国際理解を深め、相互交流を促進するため、横須賀市や姉妹都市などの高校生が、自分たちの住むまちや学校生活について英語で発表し交流する「横須賀国際ユースフォーラム」を開催しました。今年は、会場と姉妹都市をオンラインでつなぎ開催しました。



横須賀市派遣学生の発表



ブレスト市学生発表



メッドウェイ市学生発表



姉妹都市とオンラインで開催



交流会



交流会で記念撮影

◎受け入れ家庭行事

家族の一員として迎え入れてくれたホストファミリーのおかげで日本の暮らしを体験することができました。いろいろなところに連れて行ってもらい、日本での滞在がより楽しく思い出深いものになりました。



横浜観光「日本丸」をバックに



長野県の八島湿原へ小旅行



ホストマザーと初めてのたこ焼き



小田原にてかまぼこづくり



初めての銭湯



渋谷スクランブル交差点

(4) 受け入れ学生の感想文

◎コーパスクリスティ市

◆ジリアン・ディクソン Jillian DICKSON

Through the city of Corpus Christi's Sister City Exchange Program, I was awarded the once in a lifetime opportunity to experience two weeks based in Yokosuka, Japan. I attended the local high school and was able to sit in classes and meet students and staff members. I thoroughly enjoyed being able to see the lives of Japanese students my age and witness the education system.

Japan is a beautiful country. I was lucky to travel to multiple cities with YIA staff and experience what each had to offer including nature, cuisine, history, clothing, and temples. I was curious how the experience would be since I was not paired to house with a student my age, but the turnout was incredible. I gained younger siblings and still spent plenty of time with Ayaka. I was slightly worried about the futon, but slept very efficiently and comfortably.

I was welcomed, cared for, and taught by two families. I was challenged by the language barrier and having to speak Japanese in front of a room; communication was possible through patience and body language. My host family gave me the greatest gift of friendship as they included me into part of their family. Game nights, cooking meals, walking the kids to school, Asakusa Samba festival, teaching words, and Koto lessons with grandma. We all cried and hugged saying goodbye on my last day, I carry unforgettable memories with me and my mindset grew.

Major cultural differences included breakfast, schedules, personality normalcies, and transportation. In Japan I observed people self-impose schedules and stick tightly to them whether it be the meal eaten for breakfast or daily routine. I witnessed the majority of Japanese to be very grateful, polite, and private, in contrast with Americans which are direct, louder, and open. I was intrigued by the train systems, as in Corpus Christi the majority drive cars and do not walk as a form of transportation. I was amazed by the intelligence of the three Japanese alphabets Katakana, Hiragana, and Kanji. I was challenged by the fifteen-hour time difference, as my hometown was asleep, I realize this made me more present in the moment.

I have shared with my younger local peers about the Sister City Exchange Program because I wish more students knew this was a possibility. I will forever be grateful and cherish everyone I met and all who worked hard supporting and creating this incredible experience. Thank you.

【和訳】

コーパスクリスティ市の姉妹都市交換学生事業を通じて、私は横須賀（日本）において2週間の貴重な体験の機会を得ました。地元の高校に通い、授業に参加し、生徒やスタッフの方々と出会うことができました。私と同じ年齢の日本の学生たちの生活や、その教育システムを見ることができ、心から楽しむことができました。

日本は美しい国であり、横須賀国際交流協会のスタッフと一緒に複数の都市を訪れ、それぞれが持つ自然、料理、歴史、服装、寺院などを体験できたことはとても幸運でした。私のホストには同年代の学生がいなかったため、どんな経験になるかと思っていましたが、結果は素晴らしく、弟妹もでき、バディである横須賀

市の交換学生の彩夏ともたくさん時間を過ごせました。布団も少し心配でしたが、効率的で快適に眠ることができました。

2つの家族に温かく迎えられ、世話をしてもらい、さまざまなことを教えてもらいました。教室で皆の前で日本語を話すことは難しかったですが、根気強く伝えようとする気持ちと身振り手振りでコミュニケーションをとることは可能でした。ホストファミリーは友情という最高の贈り物をくれ、家族の一員として受け入れてくれました。夜、ゲームをしたり、料理をしたり、子どもたちを学校まで送ったり、浅草サンバ祭りに行ったり、言葉を教えたり、おばあちゃんから琴を教わったり。最終日に私たちは皆、抱き合い、泣きながら、別れを惜しみました。忘れられない思い出となり、視野が広がりました。

大きな文化の違いは、朝食、スケジュール、性格の特徴、交通手段に見られました。日本では人々が自ら厳格なスケジュールを作り、それを忠実に守っている様子が見られました。朝食のメニューや日々のルーティンにまでそれが表れていました。多くの日本人は非常に感謝の気持ちが深く、礼儀正しく、控えめで、これはアメリカ人の直接的で賑やかでオープンな性格とは対照的でした。交通手段としての電車システムにも興味を持ちました。コーパスクリスティでは多くの人が車を使い、歩くことはあまりありません。日本の3つの文字システム（カタカナ、ひらがな、漢字）の知恵にも感嘆しました。15時間の時差も大変でしたが、私のホームタウンが眠っている間に私はより集中することができました。

私はこの姉妹都市交換学生事業のことを地元の年下の友人たちにも伝えており、もっと多くの学生がこのような可能性を知ってほしいと願っています。私は、この経験を支え、作り上げるために尽力したすべての方々と出会った皆さんに、感謝の気持ちを永遠に持ち続け、大切にしていきます。ありがとうございました。

◆ジェイミー・ゴヴェア Jamie GOVEA

Hi, my name is Jamie Govea and I went to Japan through the sister city program. My experience was like no other. The sights and sky were just so amazingly beautiful. I got to go to school and get to see what the Japanese high school experience was like, which I really enjoyed. Everyone was so respectful, not to mention welcoming.

The host family I stayed with during my 2-week stay in Japan, was so accommodating to me, they constantly asked if I wanted to go somewhere even if they just got off work or back from a long day at school. They took me to Tokyo, the Shibuya crossing, on one of my free days where I got to try Krispy creme for the first time, it was also where I was able to see and buy clothing at a mall that's very popular among Japanese teenagers. My amazing family I got to stay with also took me to a beach. My amazing sister city host was also very accommodating, she took me to museums and gave information to give us a little background info before we entered. Any time we got hungry she would ask what we wanted to try no matter where we were and she always knew where to go and how long the walk or bus ride would be. There were so many things to do, so many sights to see, and so much food to try.

I am so glad I went because it gave me a lifelong friend and so many memories I get to enjoy and share for the rest of my life. Overall, Japan is just such an amazing place to choose to visit no matter the occasion. I can't wait to go back.

【和訳】

こんにちは。私の名前は、ジェイミー・ゴヴェアです。私は姉妹都市交換学生事業を通じて日本に行きました。私の体験は他に類を見ないものでした。景色も空も本当に美しく感動しました。学校にも通い、日

本の高校生活がどんなものかを実際に見られたことがとても楽しかったです。みんなとても礼儀正しく、そして歓迎してくれました。

日本滞在の2週間、私のホストファミリーはとても親切で、仕事から帰ったばかりでも、学校が終わったばかりでも、私がどこかに行きたいかどうかをいつも気にかけてくれました。自由行動の日には、東京の渋谷スクランブル交差点にも連れて行ってもらい、そこで初めてクリスピークリームドーナツを食べました。また、日本の若者に人気のあるショッピングモールで洋服を見たり買ったりもできました。ビーチにも連れて行ってもらいました。横須賀のスタッフはとても気配りがあり、美術館や博物館に連れて行ってくれ、入る前にバックグラウンドの説明もしてくれました。お腹が空くとどこにいても食べてみたいものを聞いてくれて、行き先や、バスや徒歩での所要時間も教えてくれました。やることも、見るものも、食べるものも、たくさんありました。

本当に行って良かったと思います。生涯の友人ができ、これからも楽しんで共有できる思い出がたくさんできました。全体として、日本はどんな機会でも訪れるのに素晴らしい場所です。早くまた行きたいです。

◎ブレスト市

◆ドレワン・マエカノヴァ Drewann MAHE CANOVAS

Before going to Yokosuka, going to Japan was one of my biggest dreams, and this dream became true. I discovered so many interesting things about Japanese culture, food, traditional things, etc. I visited many places in Yokosuka and nearby, it made me excited and some famous places which I just saw them on my phone or on TV are more impressive in real life.

The most memorable thing is my Japanese host family and the other people that I have met. My buddy Kotaro was extremely nice and now we are like friends that we have known for many years. He is extremely nice, his parents and his sisters too; I enjoyed so many moments with them and I won't forget it. They wanted me to make many Japanese discoveries, to play Japanese game with me, to teach me Japanese and to know more about France and French language. I met other people, the English students Yasmin and Bella, their buddies Manaka and Misaki, the Japanese students who went to USA, and some people during the International Youth Forum like Ayu. We shared many things about our countries to compare them. We enjoyed many fun moments with them too and we were all very sad to leave Japan, because we became friends. I met the mayor and some people linked to the city, they are all extremely kind and I want to keep in contact with them. This trip made me more passionate about Japan and it's planned: I will try my best to go back to Japan in 2 years, to see Kotaro and his family again, to see Ririi, Manaka, Misaki, the Japanese students that went to the USA, Ayu, and Kotaro's friends that I have met.

【和訳】

横須賀に行く前から、日本に行くことは私の大きな夢の一つでしたが、その夢が叶いました。日本の文化や食べ物、伝統的なことなど、たくさんの興味深いことを発見しました。横須賀やその周辺で多くの場所に行きました。スマホやテレビでしか見たことのなかった有名な場所は、実際のほうがもっと感動的でした。

一番印象に残っているのは、日本のホストファミリーや出会った人たちです。私のバディである晃太郎はとても親切で、今では長年の友人のような関係になっています。彼もご両親も妹たちもみんな親切で、一緒

に過ごした時間はとても楽しく、忘れられません。彼らは日本のことをたくさん教えてくれ、日本のゲームをしたり、日本語を教えてくれたり、フランスやフランス語についても知りたいと関心を持ってくれました。

また、イギリスの学生であるヤスミンとベラ、彼らの日本のバディである愛佳と美咲希、アメリカに行った日本の交換学生たち、国際ユースフォーラムで出会った愛結など、他にも多くの人々に会いました。私たちはお互いの国について、共有したり比較したりしました。多くの楽しい時間を過ごしました。そして、みんな日本を去るのがとても悲しかったです。なぜなら、私たちは友達になったからです。

市長をはじめ市に関わる人たちにも会いました。皆さんとても親切で、これからも連絡を取り続けたいと思っています。

この旅は私の日本への情熱をさらに強くさせました。そして計画もあります。2年以内に日本へ戻って、晃太郎や彼の家族、莉璃、愛佳、美咲希、アメリカに派遣された日本の交換学生たち、愛結、そして晃太郎の友達にまた会いたいと思います。

◆ロラ・パコレ Lola PACORET

First of all, I would like to thank you, Yokosuka City and all its representatives, for the welcome you gave us this summer. It was two incredible weeks, completely out of this world. I was able to discover Japanese family life, your culture, your city and traditional dishes, etc. Everything was magical. Thank you from the bottom of my heart for sharing all of this with me. I am also grateful because, thanks to this exchange, I was able to meet Ririi and my host parents. I formed precious bonds with all three of them by sharing these two weeks in Yokosuka with them. I couldn't have asked for a better encounter. I would also like to give you some feedback on all the activities we shared with people involved in the city, and especially the other young people: I loved everything, they were able to share so many things, places and traditions with us in such a short time. I therefore commend your organization, which was admirable and perfect.

Finally, thank you to the mayor of the city for taking the time to meet with us: it was a precious moment.

【和訳】

まず初めに、この夏私たちを歓迎してくださった横須賀市とそのすべての関係の皆様にご感謝申し上げます。信じられないほどの素晴らしい2週間で、まるで別世界にいるかのようなようでした。日本の家庭生活や文化、市、伝統的な料理など、多くのことを知ることができました。すべてが魔法のようでした。心から、これらすべてを私と共有してくださったことに感謝しています。また、この交流を通じて、莉璃やホストファザー・マザーに会えたことにも感謝しています。この横須賀での2週間をともに過ごし、この3人と貴重な絆を結ぶことができました。これ以上の素晴らしい出会いはなかったと思います。さらに、市に関わる人々や若者たちと共に体験したすべての活動についても感想をお伝えしたいと思います。すべて本当に楽しかったです。短い時間の中で多くのことや場所、伝統を私たちに共有してもらいました。その運営は素晴らしく完璧でした。

最後に、多忙な中、私たちと会ってくださった市長にも感謝します。かけがえのないひとときでした。

◎メッドウェイ市

◆ヤスミン・トムリン Yasmin TOMLIN

My trip to Japan will be one I will never forget and the memories I made and people I met will be ones I cherish and keep in close contact with. Firstly, I would like to thank the city of Yokosuka for hosting me and for giving me an amazing, once in a lifetime opportunity. On a more personal note, I would like to thank Misaki and her family for making my trip extraordinary and welcoming me into their home. While I had high expectations of my trip to Japan, which were met, nothing could have prepared me for how impacted I would be by my trip. I think I can speak for all of the Medway students when I say that coming home from Japan left us feeling sad and immediately wanting to go back there. After being asked by everyone what my favourite part was, and not having an answer, because it was all so amazing, I can finally say my favourite thing about my trip was discovering the culture. Whether that was found in trying every single food offered to me, or dressing in traditional kimonos, or visiting historic temples and contrasting modern sites that highlight Japan's journey into the modern world, I eagerly embraced and learnt every part of it. What I found amazing was how ingrained traditional Japanese practices and culture are in the modern world. I was also surprised and a little homesick at how similar Japan and Mexico are. I found parts of my own culture in the food or the language but also the festivals. In Mexico we have the Day of the Dead, which is a day to remember the people who have died, and while I was in Japan, I was honoured to experience and help with the Obon festival. I am so grateful for having the chance to experience a different culture and equally sharing my own two cultures. My trip was everything I wanted and more and I can't wait to come back again soon.

【和訳】

私の日本への旅は決して忘れられないものになるでしょう。そして、そこで作った思い出や出会った人々との出会いを大切に、これからも連絡を取り続けていきます。

最初に、私を受け入れ、一生に一度の貴重な機会を与えてくれた横須賀市に感謝します。私の旅を特別なものにし、私を温かく迎えてくれた美咲希とその家族に心からお礼を言いたいです。日本への旅には大きな期待を抱いていましたが、その期待は見事に叶えられました。この旅が私にどのような影響をもたらすか、予想も心の準備もできていませんでした。メッドウェイのすべての学生を代表して言えると思いますが、日本から帰国し、私たちは全員、悲しく、すぐに日本に戻りたいと思いました。みんなから一番良かったことを聞かれて答えに迷いました。なぜなら、全部が素晴らしかったからです。ですが、今ならはっきりと言えます。旅で一番良かったのは「文化を発見すること」でした。提供された食べ物全てに挑戦したこと、伝統的な着物を着たこと、歴史ある寺院や近代日本への歩みを象徴する場所を訪れたことなど、あらゆる面で心から受け入れ、学びました。私が驚いたのは、伝統的な日本の風習や文化が現代の生活に深く根付いていることでした。また、日本とメキシコがとても似ていることに驚き、少しホームシックを感じました。私は食べ物や言葉、祭りの中に自分の文化の一部を見つけました。メキシコには「死者の日」という、亡くなった人々を思い出す日があります。日本では盆踊りを体験し、お手伝いできたことを光栄に思っています。異なる文化を経験し、同時に私自身の二つの文化を共有できたことに、とても感謝しています。私の旅は望んでいた以上のものであり、またすぐに日本に戻るのを心待ちにしています。

◆イザベラ・ヒール Isabella HEEL

I didn't know much about Yokosuka before going, but I ended up really enjoying my time there. There is a mix of Japanese and American culture, which gave it a different vibe from anywhere else I've been.

The Naval history is still very present in the city, which was one of my favourite parts. We got to see and even go aboard the Memorial Ship Mikasa, which was an incredible experience, as we got to see history from over 100 years ago. I also got to try Yokosuka's Naval Curry, which was fun as I've never had to crush up crisps to eat with a curry before! It was such a tasty dish and I am so glad I got to try something so meaningful, as it also has a lot of history behind it.

I'd like to thank Yokosuka for allowing me to have such an amazing experience by organising and funding my time there. I am forever grateful for this opportunity.

Yokosuka was one of the best places I've visited, mainly because of my amazing hosts, the Kaneko family. I'd like to thank them for their hospitality and for making me feel like I was part of their family. During my stay with them, we laughed a lot, traded stories, and even when my Japanese wasn't perfect, they were always patient and encouraging.

They showed me around their city and let me try lots of different food, but my favourite, by far, was Oka-san's onigiri, and I've even taken the recipe and some ingredients home! They made my time in Japan one of my favourite experiences, and one I will remember for the rest of my life.

【和訳】

横須賀に来る前は横須賀のことをあまりよく知りませんでしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。横須賀は、日本とアメリカの文化が混ざり合い、これまで訪れたどことも違う独特の雰囲気がありました。

海軍の歴史が街に色濃く残っていることも、私のお気に入りのポイントの一つでした。記念艦三笠に乗艦して見学し、100 年以上前の歴史を身近に感じる素晴らしい体験ができました。また、横須賀の海軍カレーも食べてみました。カレーにポテトチップスを砕いてかけるという食べ方は初めてで、とても楽しかったです。とても美味しく、歴史的な背景もあるこの料理を味わえたことをうれしく思います。

この素晴らしい体験を企画し、経費を負担してくれた横須賀市に感謝しています。この機会に永遠に感謝します。

横須賀は私が訪れた中で最も素晴らしい場所の一つであり、その大部分は素晴らしいホストファミリー、金子さん一家のおかげです。温かいおもてなしと家族の一員のように感じさせてくれたことに心から感謝しています。滞在中はたくさん笑い、いろいろな話をして、私の日本語が完璧でなくてもいつも忍耐強く励ましてくれました。

彼らは街を案内してくれ、たくさんのいろいろな食べ物を試させてくれましたが、中でも一番のお気に入りはお母さんのおにぎり、レシピと材料を家に持ち帰ったほどです！彼らのおかげで、日本で過ごした時間は、私の人生で最高の体験の一つとなり、ずっと忘れられない思い出となりました。

4 交換学生派遣事業

(1) 姉妹都市への派遣学生

横須賀市の交換学生として、6名の高校生を姉妹都市に派遣しました。学生たちは事前研修や姉妹都市学生の受け入れ事業などで協力し合い、姉妹都市では公式行事への参加や横須賀市の紹介、ホストファミリーとの交流など、横須賀市の代表として、親善大使の役割を果たしてきました。



◎派遣学生の感想

◆竹内 ミリヤ（コーパスクリスティ市派遣）

今回の派遣を通して、とても貴重な体験ができました。今まで自分の英語に自信が持てず、積極的に行動できなかった私でしたが、勇気を持つことで自分に自信を持てることを学びました。以前よりもっと英語を使うことが好きになれました。これからもこの経験と学びを活かして英語教師という自分の夢に向かって努力を続けていきます。

◆寺田 彩夏（コーパスクリスティ市派遣）

今回、初めて価値観が大きく違う環境に身を置いたことで、物事を様々な視点から見ることの大切さを知りました。また、言語の壁を越えたコミュニケーションの楽しさを実感し、今後さらに国際交流をしていきたいと思いました。

◆大野 晃太郎（ブレスト市派遣）

私は、飽き性でずぼらな人間なのですが、この事業を知ったとき、今までにないくらいにときめいて、本気で派遣学生になりたいと思いました。結果、ブレスト市に派遣され、夢のような非日常を過ごして、自分の無限の可能性を感じました。ときめきから湧き出るエネルギーは、どんな困難も乗り越えることができると知ることができました。

◆杉山 莉璃（ブレスト市派遣）

英語を一生懸命に学んできた私にとって、フランス語が飛び交う場所は未知の世界でした。しかし、ほんの少ししかフランス語が話せない私でも、現地の人々の温かさに触れ、文化や言葉の違いは理解し合えるものなのだと改めて実感することができました。この経験を人生の糧として将来にも繋げていきたいと思いました。そして関わってくださった全ての方々に感謝したいです。

◆金子 愛佳（メッドウェイ市派遣）

この事業に参加して今までに感じたことのない感情を抱き、私自身を大きく変化させてくれました。たくさんの人と出会うことができたこの繋がりなど、この事業での経験は素晴らしい縁だと思っています。この素晴らしい縁をこれからの生活の糧にして進んでいきたいです。

◆夏苺 美咲希（メッドウェイ市派遣）

約1ヶ月間、新しいことだらけの環境で過ごす中、多くの発見と貴重な出会いをすることができました。英語での会話は積極的に意欲を持って挑みましたが、いざとなると自分の語学力の未熟さを痛感しました。しかしこの経験は決して無駄ではなく、今後の自己成長や学びの大きな原動力になると思いました。これからも引き続き努力し、国際理解を深めたいです。

(2) 研修・派遣日程

月日・曜日			研修内容等
3	27	木	応募者説明会
4	13	日	第1次選考
5	18	日	第2次選考
	28	水	第1回研修 オリエンテーション 前年度派遣学生の体験談
6	4	水	第2回研修 英会話、2分間スピーチ、記録写真のコツについて
	7	土	第3回研修 日本文化体験教室に参加
	11	水	第4回研修 英会話、姉妹都市交換学生の英語ガイド役割分担
	18	水	第5回研修 英会話、日本文化体験教室で撮影した写真の評価、 動画の作成について
	22	日	派遣学生保護者・ホストファミリー合同説明会
	25	水	市長、市議会正副議長への出発あいさつ 第6回研修 英会話、フランス語会話とフランスのマナーや習慣について
7	2	水	第7回研修 最終説明会、報告書の書き方、横須賀の歴史について発表
	20	土	コーパスクリスティ市への派遣学生出発 (8月4日まで)
8	5	火	第8回研修 国際ユースフォーラム準備
	6	水	国際ユースフォーラム
	12	火	ブレスト市への派遣学生出発 (8月26日まで)
	13	水	メッドウェイ市への派遣学生出発 (8月27日まで)
9	10	水	市長、市議会正副議長への帰国報告
			第9回研修 報告書作成

- ・7月から8月の姉妹都市からの交換学生受け入れ期間中は案内役として活動。
- ・帰国後は、横須賀市や横須賀国際交流協会の行事等にボランティア等として参加。

令和7年10月19日 キッズフェスティバル

令和7年11月15日 ヴェルニー・小栗祭式典

令和8年3月8日(予定) ジャパンフェスティバル イン よこすか

(3) 研修

交換学生は、派遣前に8回、帰国後に1回、計9回の研修に参加しました。英会話だけでなく、日本文化や横須賀の歴史、偉人、観光スポットについて学びました。また、プレゼンテーションの方法や写真の撮り方なども習得し、姉妹都市で日本や横須賀を紹介するための知識や技能を身につけました。

◎オリエンテーション

6名が初めて顔を合わせ、研修日程や派遣日程を確認し、交換学生の役割など基本的な事項について説明を受けました。その後、昨年度の派遣学生6名が、各姉妹都市での体験について説明をしました。気候、服装、ホストファミリーへのお土産、姉妹都市での活動内容、伝統的な食べ物などたくさんの情報を得ることができました。その後には各姉妹都市に分かれ、さらに詳しい話を聞いたり、質問したりする時間をとりました。



◎日本文化体験教室

姉妹都市で日本の文化を紹介するため、「日本文化体験教室」に参加しました。生け花、茶道、書道、折り紙、大正琴、沖縄三線などに挑戦しながら、英語での説明方法も同時に学びました。



◎グループワーク

毎年派遣学生は、姉妹都市から来る学生に対して英語で観光案内を行っています。グループワークでは、全員で案内先の歴史や概要を調べ、それをまとめて、英語でのガイド文を作る作業を行いました。そして、どこでどのようにガイドをするか、だれが担当するのかまで決めました。学生たちは、活発に意見を出し合い、しっかりと分担表をまとめ上げることができました。



◎2分間スピーチ

限られた時間で伝えたいことをまとめ、発表する練習をしました。制限時間内にまとめることで、聞いている人に、より興味を持ってもらえるような発表の仕方を考え、実行しました。時間が足りなくなったり、逆に余ったり、言いたいことがうまく伝えられなかったり、時間配分や人前で話すことの難しさを実感しながら、要点を整理して意見を述べるトレーニングを行いました。発表後は互いに評価し合い、さらなる向上を目指しました。



◎英会話とフランス語のレッスン

横須賀市のアメリカ人国際交流員とフランス人国際交流員の指導のもと、全4回のレッスンを受けました。レッスンでは、自己紹介や横須賀の観光地や歴史、偉人、日本文化の紹介に加え、派遣先で自分から積極的に話ができるように、いろいろ質問する練習をしました。毎回、アメリカ人ボランティア数名の参加もあり、マンツーマンでの練習ができました。皆、初回からがんばって会話を楽しんでいました。回を重ねるごとに仲良くなり、より自然に会話ができるようになりました。

また、フランス人の国際交流員からはフランス語の簡単なあいさつや、マナー、習慣についても教わりました。食事はゆっくり家族と話しながら食べること、言いたいことがあったらはっきりと相手に伝えることなどを学びました。



◎写真の撮り方

交換学生の役割の一つは、自身の体験を多くの人に伝えることです。そのためには、報告書や写真展で使用する写真を撮影する必要があります。

日本文化体験教室で撮影した写真を持ち寄り、参加者全員で評価し合い、わかりやすく伝わる写真を撮る方法を学びました。どの場面でどのような活動を行ったのかがわかるように撮影することや、お互いに撮り合って自分自身が写るようにすることなどを確認しました。



◎出発あいさつ・帰国報告

姉妹都市への出発前に、市長や市議会の正副議長を表敬訪問し、派遣に向けた抱負や意気込みを伝える機会がありました。この機会を通じて、市を代表して派遣されることを再確認することができました。

帰国後は、姉妹都市で経験したことや、感じたことを報告しました。コーパスクリスティ市に派遣された学生は、完成したばかりの動画を市長、正副議長に披露しました。



◎姉妹都市紹介動画

派遣学生は、帰国後、交換学生事業やそれぞれが派遣された姉妹都市での体験をまとめた動画を作成し、市公式 YouTube で公開しています。各姉妹都市の観光スポットや、横須賀市とゆかりのある偉人などをわかりやすく紹介しています。

表紙の写真下の二次元コードからご覧ください。

(4)派遣学生報告書

Corpus Christi

コーパスクリスティ市

派遣期間： 7月20日～8月4日

寺田 彩夏 神奈川県立柏陽高等学校 2年
竹内 ミリヤ 横須賀市立横須賀総合高等学校 1年



ワタバーガー球場で野球観戦

日付	活動概要
7月20日(日)	羽田空港発 コーパスクリスティ市着
7月21日(月)	シーウォールを散歩(寺田) / ジェイミーの部活見学(竹内)、歓迎会
7月22日(火)	市長表敬訪問、野球観戦(コーパスクリスティ・フックス)
7月23日(水)	テレビ局KIII見学
7月24日(木)	USSレキシントン博物館、テキサス州立水族館
7月25日(金)	コーパスクリスティ港見学 / サーフクラブ、ショッピング(竹内) ミュージカル鑑賞(Hairspray)
7月26日(土)	オースティン観光、テキサス州議会議事堂(寺田) / ビーチ(竹内)
7月27日(日)	オースティン湖、ブラントン美術館、テキサス大学(寺田) ショッピング、日本食パーティ(竹内)
7月28日(月)	ホストシスターの学生寮(寺田) / ジェイミーの部活見学(竹内)
7月29日(火)	テキサス A&M コーパスクリスティ大学 / ホストシスターの誕生日会(寺田)
7月30日(水)	ビーチ、ヨット(寺田) / 南テキサス植物園と自然センター(竹内)
7月31日(木)	南テキサス美術館、ゲームセンター(寺田) / ショッピング(竹内) お別れ会、ハーバーブリッジ散歩
8月1日(金)	パドレ島(寺田) / ハリケーンアリーウォーターパーク(竹内) (コーパスクリスティ) アートウォーク
8月2日(土)	釣り、ホームパーティ、乗馬(寺田) / ゴリアド州立公園(竹内)
8月3日(日)	コーパスクリスティ市発
8月4日(月)	羽田空港着

様々な気づき

寺田 彩夏



この写真は、バディのジリアンと撮った写真です。テキサス州の州都、オースティンに家族で旅行に行き、夕暮れを見て大きな湖の橋を散歩しました。夕暮れの空はピンク色も混じり、幻想的でした。この湖は夕方にコウモリの群れが橋の下に留まりに来ることで知られているそうです。この写真を撮った前日に、実際にそれを見ることができました。

■英語での意思疎通

私は英語が非常に苦手で、ジリアンと初めて会った時には、会話が成り立たない状態でした。コーパスクリスティに行った当初も、ほとんど聞き取れなくて不安でいっぱいでした。しかし、家族全員がゆっくり話すように協力してくれました。ジリアンは簡単な英語を使って、わからなかったことを何でも教えてくれました。最初は何回も聞くことが迷惑かもしれないと思っていましたが、周囲の人々が優しく教えてくれたので、わからないままにせず、理解できるまで聞き直すように心がけました。また、何事にも好奇心を持ち、身の回りにある名前のわからないもの、自分の考えや感情の表現方法などをとにかく聞いて学びました。例えば、ジリアンの親友たちと一緒に海に行ったときに、発見した海の生き物の名前をたくさん聞きました。このことは、会話をするきっかけにもなりました。英語がわからない場合でも話す方法を見つけられて楽しかったです。



ハーバーでヨガ体験

■価値観の違い



英語がわからないだけでなく、価値観の違いにも戸惑いました。アメリカでは食べ物が日本の料理より二回りほど大きく、食べきれなくて困っていたのですが、アメリカでは、自分が食べたいだけ食べたら残りは捨てるか家に持ち帰るそうです。このことをジリアンに教えてもらわなければ、アメリカ人は全員これだけの量を食べきるのだろうと信じて疑わなかったでしょう。また、現地では日本より手を使って食事する場面が多いことを知らずにフォークで食べていたら、日本人が手で食べることはないと言われ、勘違いされてしまいました。

これらのことから、自分で見たり体験したりするだけでは、相手の文化を勘違いして捉えてしまうことがあることを知りました。自分が体験したことは物事の一側面にすぎない可能性があることを考慮する必要があり、体験して感じたことが実際はどうかを知るために現地の人たちと話すことが非常に大切であると思いました。



■生活環境の違い

コーパスクリスティは横須賀と違い、土地が広く平坦でした。そのため、住宅が大きいのは勿論のこと、綿畑などが遠くまで続いていました。また、隣にあるパドレ島付近に行ったときには、海辺にある家には栈橋のようなものがあり、そこからボートを出せるようになっていました。これらは日本ではなかなか見ない風景なのでとても興味深かったです。



■車社会

アメリカは車社会であることは以前から知っていましたが、自分が想像していた以上に生活全体に車移動が根づいていました。ニューヨークには地下鉄などもありますが、コーパスクリスティには電車がなく、歩くには土地がとても広いので人々は常に車で移動していました。車を持っていないと行動できる範囲がとても限られるため、ほとんどの人が車を持っていました。また、ジリアンの家族は健康的な生活を心がけていて、朝などに近所に散歩に行ったり、スポーツジムで運動をしたり、運動不足にならないように気を付けていました。その一方で、同じ通りにあるお祖母さんの家に訪れるだけでも、車で移動していて、「どんなに近くても必ず車で移動する」と教えてくれました。日本では、運動不足解消のために歩いて登校、出勤するなど、運動を兼ねて移動することもありますが、ジリアン達との生活では、移動と運動は別物として考えているような印象を受けました。

■街並み

コーパスクリスティは先に述べた通り、広大な土地で畑もたくさんありました。しかし、日本の田園風景のように田畑の中に家が一つ見えるような、各々の家が点在しているわけではなく、畑が広がっている傍らにコミュニティがあり、そういったコミュニティが点在していました。また、商業施設は、基本的に住宅地のようにある区画に集められていました。目的ごとに建物が集められていて、それぞれに車でアクセスしやすくなっていました。一か所に住宅を集めることは、横須賀市にも活かせると思いました。横須賀市は土地の起伏が激しく、入り組んだ坂道の周辺に空き家が多くなっています。実現は非常に難しいでしょうが、意図的に住宅地を整備することで、空き家が連続して存在したり、放置されたりすることの予防につながりそうだと思います。



■自分の考え方に与えた影響

今回の体験を通して、気候や価値観の違いで生活環境や習慣に大きな差ができることを知りました。様々な人が過ごしやすい街づくりなどを学んでいきたいと思っている私にとって、今回の経験は、自分と違う立場や状況について考えるときの視野を広げることにつながりました。また、ジリアンやホストファミリーがたくさんのことを体験させてくれて、様々な事を教えてくれたことで、人と話し、お互いについて知り、協力しあうことは、過ごしやすい環境作りに繋がると実感しました。このことは、自分が今まで考えてこなかった方向からの街づくりへのアプローチで、専門知識がない現在でもできることです。従って、これからこの気づきを生活の中に取り入れてみたいと思いました。

勇気は自信につながる！

竹内 ミリヤ



この写真はコーパスクリスティ市で有名なハーバーブリッジという大きな橋を渡った時の写真です。私と肩を組んでいるのは、私のバディのジェイミーです。とっても元気で笑顔が素敵な交換学生でした。この橋は、2週間の派遣期間の最後のお別れパーティー後に渡ったのですが、夜の8時でしたが夕日がとてもきれいで、私の一番の思い出です。

■共生

コーパスクリスティ市はメキシコに隣接していて、多くのメキシコ人が住んでいます。これは米軍基地があり、多くの外国の方が住んでいる横須賀と状況が似ていると私は思いました。そこで私は、実際にコーパスクリスティ市でどのように異なる人種が共存しているのかを見ることを目標にコーパスクリスティ市に行きました。滞在中、街の至る所で英語とスペイン語が飛び交い、看板や注意書も二か国語表記が当たり前のように存在していました。現地で多くの人と話してみると三分の一ほどの市民が英語とスペイン語のバイリンガルでした。また、アメリカ系とメキシコ系のバックグラウンドを持った人が多く、食文化や宗教行事などにその影響が色濃く反映されていました。例えば、ホストファミリーとの食事はタコスやチップスなどといったメキシカンなものもあれば、ハンバーガーやピザなどのアメリカらしいものもありました。印象的だったのは、どちらかの文化が「主」というわけではなく、お互いの文化を尊重し合い、日常生活の中で自然に混ざり合っていたことです。日本では、文化的な違いや、外国人との共生などといった話はどこか他人事であったり、特別な話として受け取られがちですが、コーパスクリスティ市ではそれらが日常であり、当たり前のこととして受け入れていました。コーパスクリスティ市には、私たち若者がこれから考えていくべき多文化共生が存在していると私は感じました。



■自分自身の成長



コーパスクリスティ市に交換学生として2週間派遣され、私は自分自身の成長を強く実感しました。この経験は、単に海外で生活したという経験だけでなく、将来の夢である英語教師への道を考える上で、かけがえのない学びになりました。滞在当初、私は「英語がうまく話せなかったらどうしよう」「相手の気分を害してしまったらどうしよう」など恐れる気持ちでいっぱいでした。文法の正しさなどを気にするあまり、なかなか積極的に話すことができませんでした。アメリカでの生活は自分の意見

をはっきりと言葉にして伝える必要があり、最初の数日はうまく自分の意見が言えず、もやもやした気持ちで日々を過ごしてしまいました。ある日、バディに「ミリヤ、今日は何したい？どこに行きたい？」と聞かれたのですが、うまく答えられずもじもじしていると、ホストマザーが「自分のやりたいことを素直に言えばいいのよ。やりたくないことははっきりやりたくないってちゃんと言ってくれば私たちもあなたの気持ちを尊重するから。」と言ってくれました。それまでは、自信のなさや意見を伝えることへの恐れでいっぱいでした。その時初めて頑張って自分が思っていたことをはっきり伝えてみました。少しだけ勇気を出して間違いを恐れず会話してみると、ホストファミリーは、私の言葉を理解しようと笑顔で耳を傾け、間違いを気にせず受け止めてくれました。その時、私は「完璧でなくていい。自分から伝えようとする姿勢が大切なのだ」と気づくことができました。そこから少しずつ積極的に行動することができるようになり、毎日が挑戦と達成感の連続になっていきました。この経験を通じて、私は「思っている以上に行動できる」という自信を得ることができました。日本にいたときは、どうしても失敗を恐れて一步を踏み出せないことが多かったのですが、異国で生活した2週間は、そんな自分の弱みを変えてくれるきっかけになりました。挑戦することで視野が広がり自信がつき、人との繋がりも増えていく。その実感は、



今後どんな場面でも私の背中を押してくれると思います。また、この成長の実感「将来、英語教師になりたい」という思いにも直結しました。言語を学ぶことは単なる知識の習得ではなく、自分の殻を破り、世界とつながるための手段だということを、私は身をもって体験しました。だからこそ、将来は生徒たちにも「英語を学ぶことで自分の可能性を広げられる」ということを伝えたいと思います。さらに、私は文法や単語などを勉強することが苦手で、今まで避けてしまっていたのですが、実際に英語を使って生活してみると「こうやって言うにはどういう文法や単語を使えばいいんだろう」といった疑問が自然と湧いてきて、勉強というより経験のような形で、文法や単語を学ぶことができました。その時私は、ただ教科書で勉強するだけではなく、文化や空気に触れて生活してみるものの大切さにも気づくことができました。

■将来に向けて

今回の派遣を通して、言語を学ぶだけでなく、文化を感じ、学ぶことの大切さを知ることができました。教科書を読む、問題集を解く、それもとてとても重要なことだと思います。しかし、文化や歴史も一緒に学ぶことで物事の背景を知ることができ、より言語を勉強することに意欲的になれると私は思いました。派遣を終えて、私は将来、英語教師として、ただ英語を教えるだけでなく、言葉の背景にある文化や価値観の多様性も伝えられるような存在になりたい、生徒が英語に興味を持ち楽しみながら学べる環境をつくれる教師になりたいと改めて感じました。この事業での経験は、私にとって自分の夢を実現に近づける大きな一歩でした。これからも英語の勉強に励むとともに、異文化理解や人とのつながりの大切さを忘れず、夢に向かって努力していきたいです。

Brest

ブレスト市

派遣期間： 8月12日～26日

大野 晃太郎 神奈川県立横須賀高等学校 2年
杉山 莉璃 山手学院高等学校 1年



国立ブレスト植物保護園

日付	活動概要
8月12日（火）	羽田空港発、ブレスト市着
8月13日（水）	マーケット（大野） / ビーチ散策、アップルパイ作り（杉山）
8月14日（木）	市内観光 / 地元の音楽フェスティバル（杉山）
8月15日（金）	地元の音楽フェスティバル（大野） / パリ・オペラ座、 ギャラリーラファイエット（杉山）
8月16日（土）	湖、庭でプール（大野） / エッフェル塔、凱旋門、セーヌ川クルーズ（杉山）
8月17日（日）	フットボール観戦（大野） / オランジュリー美術館、ノートルダム大聖堂、 パリ五輪聖火台（杉山）
8月18日（月）	モン・サン・ミッシェル（大野） / ショッピング（杉山）
8月19日（火）	39/45 メモワール博物館、ヴィアフェラータ、サン・マチュー灯台
8月20日（水）	国立ブレスト植物保護園
8月21日（木）	オセアノポリス、セーリングボート / クッキー作り（杉山）
8月22日（金）	姉妹都市事業関係者との交流会 / マーケット（杉山）
8月23日（土）	ボウリング（大野） / ショッピング（杉山）
8月24日（日）	海水浴（大野） / マルシェ、マカロン作り（杉山）
8月25日（月）	ブレスト市発
8月26日（火）	羽田空港着



この写真はブレスト空港に着いたときに撮りました。ホストファミリーが日本語で「いらっしやいませ、こうたろう」「おかえり ドレワン」と書いてある紙を持って、待っていてくれました。最初に見た瞬間に「ああなんて素敵な家族だろう」と心から思いました。この時までホストファミリーと話したことがなく、とても緊張していましたが、本当に明るい家族で毎日がとても幸せでした。

■言語を超えたコミュニケーション

私のホストファミリーのルールは「毎日1回みんなでゲームをする」でした。日中空いた時間は基本的にホストシスターやバディのドレワンとゲームをし、夜は家族で食卓を囲み、カードゲームやボードゲームをしました。ゲームが始まると、もう言語は関係ありません。フランス語は全く聞き取れないのですが、同じテーブルに座って一緒にゲームをしていると、不思議なことに話している内容が理解でき、言語の壁を越え心でつながってコミュニケーションをしていることを実感できました。毎日欠かさずしたゲームが、私とホストファミリーを強く結び付けてくれました。



特に思い出に残っていることはダーツをしたことです。家族みんなで毎晩のように遊んでいました。私は今まで一度もダーツをしたことがなく、最初は最下位でしたが、家族の中でチャンピオンのホストファーザーからアドバイスをもらい、たくさん練習をして、最終日の前日には家族で1位になることができました。

■ホストファーザーの料理に舌鼓

私のホストファーザーは仕事が料理人だったため、毎日とてもおいしい料理を作ってもらいました。市のプログラムで外出する際は基本ランチを持ち寄ってピクニックをするのですが、その時に毎回ホストファーザーがバターたっぷりのチーズサンドイッチを作ってくれました。フランス料理に欠かせないバターはブルターニュ地方の特産品で、甘みが強く、奥深い、とってもおいしいバターです。そのほかにもブレストは漁業が盛んで、スーパーではたくさんの鮮魚が並んでいました。黒鯛がブルターニュ伝統の魚で、身がぷりぷりで、適度に脂がのっておいしかったです。また、毎日小麦を摂っていたので、お米が恋しいという話をしたら、ホストファーザーが自慢のパエリアを作ってくれました。



もちろんフランス料理もたくさん作ってくれて、特にカマンベールチーズを丸々1個使ったフライは見た目も味もインパクトがあった料理で今でも鮮明に覚えています。



■植物園で知った平等の観点

国立ブレスト植物保護園を訪れた際に、植物園の職員の方から貴重なお話がありました。植物園には、どこにでもある食用のコーンから、絶滅寸前の植物まで多種多様な植物が共存していました。私は今まで絶滅危惧種と聞くと、貴重で神秘的なイメージを抱いていました。

しかし植物園の絶滅危惧の植物は、飾り気の無い、不格好なものでした。職員の方から「すべての生き物を平等に尊重する」という話を聞いて自分が無意識にも、美しさや希少性、その個性などによって、偏った扱いをしていたことに気づかされました。人間の視点から抜け出し、植物の視点で考えたことは今まで一度もなかったもので、とても新鮮でした。物事を一方的な視点から見るのではなく、あらゆる方面から客観的に見ることを学びました。



■ブルトンを継ぐ

ブレストを含むブルターニュ地方はもともと別の王国で、フランスとは違った文化を持っていました。その痕跡はブレストの街の様子から、そしてブレストの人々から力強く感じました。ホストファミリーの家に大量にブルトングッズが置かれていたのがその理由の一つではありますが、ブレストで知り合った人々の雰囲気を観察していると、共通の「ブルトンの誇り」というものを感じました。ブルトンの伝統的なダンスの催しやサッカー観戦に参加したり、ブルトンの人々とともに生活したりしたことで、国としては残っていないが、ブルトンの人々の文化や伝統は、途切れることなくこの地で代々引き継がれていると感じました。日本の地域ごとの文化、伝統とは大きく異なる統一国家内のギャップを感じました。



■感想

17歳という年齢で、このような貴重な体験をすることができたことを、とてもうれしく思っています。今回のブレストでの2週間の派遣期間は毎日が驚きと発見にあふれていました。特にホストファミリーと過ごした日々は、私の人生にとってかけがえのない宝物となりました。ブレストに滞在して、お互いに文化の違いや価値観の様々な違いを理解し受け入れながら過ごした日々は、姉妹都市交換学生事業だからこそ経験することができ、私にとって人生で最高の思い出となりました。このことをきっかけに、一度きりの人生を自分の好きなこと、楽しいことで埋め尽くすために努力したいと思うことができました。



この写真はエッフェル塔前でバディのロラと撮りました。私の両親がパリ旅行に行ったときに写真を撮った場所と同じところで写真を撮ってくれました

■驚きの連続

フランスでの日常は新発見で溢れていました。たとえば、1日の時間の流れ方や食事の楽しみ方です。私のホストファミリーの1日はまず、レコードで音楽を聴くことから始まっていました。朝食にクロワッサンやフランスパンを食べながら、素敵な音色の音楽を聴く。まさに「優雅」という言葉が似合うものでした。シンプルだけれど豊かさを感じるフランスの朝食文化に触れることができました。

さらに日本ではあまりしない体験をしたのは夕食の時でした。私のホストファミリーは、夕食をビーチでピクニックをしながら食べる習慣があったのです。夏のブレストは

夜の9時頃まで明るいので、おかずを家で作ってポテトチップスなどと一緒に持っていく、日の入りを見ながらご飯を食べたり、時には海に入った後に食べたりもしました。

また、食事の後に必ずといっていいほど、スイーツやフルーツをデザートとして食べていました。私は滞在中に、本場のエクレアやクイニーアマンなどを食べました。さらに食事のマナーとして、全員が席に着くまでは勝手に食事を始めないという文化がありました。そして普段の食事でも前菜、メイン、デザートという形で順番に料理が出てくるので、非日常的な体験となりました。



■ホストファミリーとの思い出

私はホストファミリーにたくさんの体験をさせてもらいました。その中でも一番印象に残っているのがお菓子作りです。レシピはホストファミリーの中で受け継がれているもので、アップルパイやクッキー、マカロンを作りました。ホストマザーが夕飯のデザートにチョコレートムースを作ってくれていたこともありました。日本人ならお店で買ってくるものでも自分で作ってしまうのもフランスならではのかなと感じました。





バディのロラが大好きなスムージーも家で作ってたくさん飲みました。入れるフルーツの組み合わせを考えたり、このフルーツを入れるとどんな味・色になるのかを考えたりしながら作るのがとても面白く興味深かったです。



私のホストファミリーは列車で片道4時間かかるパリにも連れて行ってくれました。エッフェル塔や凱旋門、ノートルダム大聖堂などの観光名所にも足を運び、その建物が持つ意義や歴史についても説明をしてくれました。私は小さい頃からクラシックバレエを習っていたので、パリ・オペラ座の見学ツアーはとても心躍る時間でした。

そして何より衝撃だったことは、パリからの帰りの列車で隣の席に座っていた、面識もない家族と、フランスのカードゲームをしたことです。私は最初、その家族と仲良さそうに話すホストマザーをみて、知り合いに会ったんだと思っていました。しかしそれは間違いでした。本当はその場で出会っただけの全くの他人だったのです。それにもかかわらず仲睦まじく話している姿を見て、私は、フランス人の温かさを感じました。また、日本だったら、ただ新幹線や列車で隣に座するというだけで親しくなることはとても珍しいことだと思い、文化の違いも感じました。

ホストファミリーとビーチに行った時、ロラだけでなく、ホストマザーやホストファーザーも一緒にカニや魚を探している様子が印象的でした。みんなが生き物を大切にしていること、そして生き物が大好きなことが伝わってきました。

最終日の夜、ロラと地図を見ながら話す機会がありました。どんどん話が盛り上がり、最終的には自分たちが学校で学んでいる地理や歴史の話になりました。ホストファーザーやマザーも加わり、普段の学校での学びを活かして日本の学生が学ぶ歴史や地理のことを説明し、逆にフランスの学校ではどんなことを学ぶのかも教えてもらいました。私が勉強用に持っていった社会のノートを見せると関心を持ってくれて、会話を弾ませることができました。今までの日本での勉強が役に立つということを直接肌で実感した瞬間でもありました。



■かけがえのない経験から

私はブレストに着いてからたくさんの人々に会いました。ホストファミリーはもちろん、姉妹都市の交流を企画してくれている市の担当者や、通訳の方から派遣学生の友達まで。全員が“みんな違ってみんな良い”の世界を生きている中で、一つだけ全員に共通していたことがありました。それは優しさです。もれなく全員が私たち日本からの派遣学生を気にかけて、異国の地で戸惑っていた私たちを支え続けてくれました。

価値観や文化が違っていても時間や考え方を共有し、お互いに新しい視点を得ることができた有意義な時間でした。人々の温かさに触れ、愛情に囲まれて過ごした2週間は一生忘れることのない貴重でかけがえのない体験となりました。

Medway

メッドウェイ市

派遣期間： 8月13日～27日

金子 愛佳 法政大学国際高等学校 1年
夏莉 美咲希 横須賀市立横須賀総合高等学校 3年



グリニッジ天文台

日付	活動概要
8月13日（水）	羽田空港発 メッドウェイ市着
8月14日（木）	王立植物園（夏莉） / 国立美術館、ショッピング（金子）
8月15日（金）	海、マーゲイト観光、レストランでフィッシュアンドチップス
8月16日（土）	馬のブラッシング体験、Tシャツづくり
8月17日（日）	テムズ川でクルーズ（夏莉） / セントラルランカシャー大学見学（金子）
8月18日（月）	警察施設見学、遊園地
8月19日（火）	セントメアリーマグダレン教会、ドックヤード巡り
8月20日（水）	ロンドン観光 バッキンガム宮殿、ビッグベン
8月21日（木）	市長表敬訪問、教会ベル体験
8月22日（金）	報知器工場見学、カヤック
8月23日（土）	グルドワーラー寺院
8月24日（日）	参加者全員でバーベキュー
8月25日（月）	ドーバ城（夏莉） / カムデン散策、ドレスアップ体験（金子）
8月26日（火）	メッドウェイ市発
8月27日（水）	羽田空港着



これは、ビクトリア時代のドレスを着用できるフォトスタジオに行って、撮ってもらった写真です。バディのベラとホストシスターと一緒にドレスアップをしてもらい、たくさんの写真を撮ってもらいました。日本では恥ずかしくて挑戦できないことをイギリスでは挑戦することができ、とても可愛くしてもらえたので印象に残っています。

■異文化体験の本質



妹手作りのガーランド

受け入れ行事と姉妹都市へ派遣された1ヵ月間は私にとってとても印象的で濃厚な時間でした。そのように感じることはお互いの文化を尊敬し合う異文化体験であったからです。私のホストファミリーは靴を脱ぎ履きするという日本での習慣を考慮し、私の快適な生活のためにたくさんのスリッパを用意してくれていました。

また日常生活の言語をすべて英語ではなく挨拶程度ですが「おはよう」「いただきます」などの日本語を取り入れてくれました。ホストファミリーが日本での文化や習慣を尊重し率先して日常に取り入れてくれたことがきっかけとなり、私もイギリスの文化を大事にしよう、尊重しようと思えることができました。その思いは自然と行動へと移り、ホストファミリーや友人たちが勧めてくれた音楽やテレビ番組、食べ物は積極的に挑戦しました。また、日本の習慣のみで日常生活を完結させずに、イギリスの習慣について尋ねて実践することもありました。このように、現地の習慣に配慮したり、言語を積極的に取り入れたり、新しい習慣に挑戦したりすることは、小さなことに感じるかもしれませんが、私にとってはそうすることでホストファミリーとの関係をより親密にすることができました。この約1ヵ月間が素晴らしいものとなったのは、紛れもなくお互いの文化を尊重し合えたからだと思います。この体験こそが異文化体験の本質であると思いました。



過去の派遣生の家でBBQ

■海外に出てわかる日本の魅力

「日本ってスーパーマーケットに商品を袋に詰めるところがあるんだ！」この会話は日本に滞在していた2週間でのバディのベラとの会話の一部です。日本ではごく当たり前を使うスーパーマーケットにある袋詰めコーナーですが、彼女にとってはとても驚く光景だったようです。実際にイギリスへ訪れた際に行ったスーパーマーケットは会計する場所と袋詰めをする場所は分かれておらず、人と人が隣り合って袋詰めをする大きな



たくさんの紅茶

袋詰めコーナーはありませんでした。そのほかにも、日本はどこに行ってもきれいだという会話をしたこともありました。日本は「物事をスムーズにきれいに進めたい、人が使うところは清潔にしておきたい」という素敵な考えを持った国なのだと再認識しました。世界に出てみないとわからないことはまだまだたくさんありますが、自分が住む国を客観的にみたことがなかった私はまた一つ日本の魅力に気づくことができました。



おしゃれな箱の紅茶

■たくさんの繋がり

私のホストファミリーは、とても明るくてやさしさであふれる家族でした。朝は持ち物チェックを一緒にしてくれたり「Have a lovely day!」と言って送り出してくれたり、気候が日本とは異なり、1日の気温差が激しかったため、私の体調をいつも気遣ってくれました。帰宅後は、1日の感想を欠かさず聞いてくれました。特にホストシスターとは部屋が隣だったこともあり、たくさんコミュニケーションを取りました。寝る1時間前になると必ず「今日はどうだった?」、「何に挑戦したの?」と聞いてくれたり、一緒にネイルアートをしたりしました。彼女は私に「本当のお姉ちゃんみたい!」と言ってくれました。また、バディのベラの友人全員が、私が帰国する前日に私に会いに来てくれました。友人たちとは日本のアニメの話をしたりそれぞれの学校の話をしたりして、とても素敵な時間を過ごすことができました。

また、人と人の繋がりだけではなく、横須賀市とメッドウェイ市の姉妹都市という繋がりを改めて実感することができました。事前研修でたくさん調べてきた三浦按針にまつわる飲食店やモニュメント、建造物をたくさん訪れました。話の中や資料の中でたびたび出てくる「横須賀市」という文字を目にすると毎回メッドウェイ市と横須賀市の姉妹都市という繋がりは一朝一夕で築き上げられない、歴史を重ねて築くことができた素敵な関係であると再度感じるすることができました。人と人の繋がりも、姉妹都市という繋がりも、どれもこれもすべて感謝すべき縁であり、これから先も大事にしていきたいと強く思いました。



学生・ホストファミリー全員の写真

■なんでも楽しく

この事業の選考の期間から今日まで、私は日々経験したことのない新しいことに囲まれていました。私がこの事業に参加したのは、自分自身をもっと成長させたかったからでした。ずっと同じところで過ごし、ずっと同じことを毎日繰り返せば自分自身が成長できないことは頭では理解していたものの実際は怖くて挑戦することができませんでした。この事業のおかげで私は一步を堂々と踏み出すことができました。変わることが出来た理由のうちの一つは、ホストファミリーが常にどんな瞬間も楽しく過ごそうとする家族であったからだと思います。気づけば歌って踊っている、気づけば変顔して笑っている。そんな環境で2週間過ごしたからこそ自然と一瞬一瞬を楽しく生きることの大切さを自分で体感することができました。私に足りなかったものは、どんなことでも楽しむこと。このことに高校1年生で気づくことができたので、それを忘れずに、これからも理想を追い求め自分自身を高めるために学び続けていきたいです。



この写真は、教会でベルを鳴らす体験をした際、特別に屋根の上に登らせてもらった時に撮影しました。ちょうど、太陽が沈む時間帯で、夕日と広大な草原がとても美しく、心に残りました。残りの日数が少なくなり、最終日が近づくなかで、このようなすばらしい景色をバディと一緒に見ることができて本当にうれしかったです。

■家族や友達、恋人への思いを表現する文化

イギリスに行って一番驚いたこと、そして同時に素敵だと感じたことは、愛情表現の文化です。久しぶりに会った家族や、友達とハグを交わし「I missed you」と伝え合うことが、当たり前でした。また、電話を切る際にも「I love you」と家族同士で言い合っており、それらはもはや挨拶の一部のように感じられました。日本の家族間ではあまり言い合うことがないような言葉が、普通に使われていました。直接的な愛情表現が日常の習慣として定着していることが、私は強い魅力に感じました。さらに、その思いを他人と共有したいという文化も存在していました。その一例が町中のベンチです。公園やビーチといった多くの人が訪れる公共の場には、木製のベンチに金属のプレートが取り付けられ、言葉や年代などが刻まれていました。多くは家族を亡くした遺族が、故人との思い出の場所に、その人への思いを込めて設置したものです。そのベンチに座ることで、遺族は故人との思い出を振り返ることができます。私も何度かそのベンチに座りましたが、ある時は夕焼けを眺め、またある時は子供たちが遊ぶ姿を見ました。そうした時間の中で、どのベンチも誰かの大切な思い出が刻まれた場所であることを実感しました。このように、愛情や思い出を堂々と表現し、社会全体で共有しようとする文化は、私にとって非常に新鮮であり、とても素敵に思えました。



■一緒に過ごした時間

バディと毎日一緒に過ごす中で、とても短い時間ではありましたが、お互いを深く知ることができました。日本でもイギリスでも、多くの場所を訪れ、様々な体験をする中で、次第に本当の家族のように冗談を言い合える関係になっていきました。最後のホストファミリーデーの日には、これまで訪れた観光地や歴史的な建物の写真やパンフレット、買ったもののレシート、電車の切符など、バディと二人で集めてきた思い出を一冊のノートにまとめました。私の一番好きなページは食べ物のページです。朝食によく食べていた私のお気に入りのシリアルのパッケージを、ホストグラندマザーが取っておいてくれたので、それを貼ることができました。また、バディと一緒に挑戦したお菓子や、一緒に行ったレストランのレシートなどを貼り付け、見返すたびに笑顔になるページになりました。ノートを作りながら、これまでの思い出を語り合い、また「イギリ



スに戻ってきてね」と言ってくれるバディに、私も「日本にもまた来てね」と伝えあいました。またホストグランドファーザーとは一緒にブルーベリーマフィンも作りました。料理のことだけでなく、彼自身の若い頃の思い出や人生の話までたくさん聞かせてもらい、とても貴重な時間になりました。

■全ての人が楽しめる場所

教会や城、公園などの観光地を訪れた際、どの場所にも子供向けの遊び場や体験型の仕掛けが設置されていることに感銘を受けました。これらは子供が学びを深められるよう工夫されており、高校生の私でさえ挑戦してみたくなるものばかりでした。例えば、城の中の調理室の中で、スープの調理過程が再現されており、私たちもその過程で使われていた用具を使ってみるができます。一方で教会などには子供だけで遊ぶことができる部屋が確保されていて、おもちゃや絵本がそろっていました。こうした取り組みは子供のためだけでなく、大人のためでもあると感じました。子供が遊んでいる間に、大人は安心してゆっくりと見学できるからです。難しい内容や静けさが求められる場であっても、気兼ねなく家族で訪れられる点は、横須賀にも取り入れられるべきだと思いました。さらに、教会や城には開放的な芝生やベンチが多く、持参したお弁当でピクニックを楽しむ人が多かったのも印象的でした。公共のゴミ箱があらゆる場所に設置されており、食後すぐにゴミを捨てられる便利さもありました。派遣中、私たちはお昼ごはんの時間にはお店に入らず、それぞれが持ち寄った食べ物で時間を過ごし、落ち着いたひとときを楽しむことができました。ビーガンの人、宗教的に制限されている食べ物がある人、お金に余裕のない人、家族連れなどの人など、入れるレストランが限られている人々にとって、持参したお弁当や食べ物を、町のいたるところで食べることができ、とても助けになっていると思います。このように、すべての人が同じ空間で食事を共にすることができる環境が整っていました。



■言語の壁

今回の研修を通じて、素晴らしい文化を数多く知り、体験することができました。この事業に参加していなかったら絶対にできていなかったことだと思います。違った文化に触れ、新しいアイデアを見つけることはとても楽しく、学びになりました。しかし同時に、言語の壁を強く感じたのも事実です。自分の考えをうまく伝えられなかったり、相手の言葉を聞き取れなかったりする場面は少なくありませんでした。特にとっさに聞かれた質問に、戸惑ってしまい、すぐに返すことができませんでした。それでも、ホストファミリーやバディは粘り強く英語での会話を続けようとしてくれました。例えば、私が知っているような語彙で言い方を変え、そのあとに、状況に応じた言い回しを教えてくださいました。何度も聞き返し、私がどの言葉を伝えようとしているのか一生懸命考え、向き合ってくれました。正しい音と、スペル、意味をしっかりと結び付けて勉強する必要があると改めて実感しました。そして何よりも、現地の人と実際に話すことの大切さを学びました。そのように互いに理解しようと努め、さまざまな工夫をしながらコミュニケーションを取ることができました。この経験は語学力の向上だけでなく、人との関わり方そのものを見直すきっかけにもなったと強く思います。

令和 7 年度姉妹都市交換学生事業報告書

発行年月 令和 8 年（2026 年） 1 月発行

発 行 横須賀市

編 集 横須賀市市長室国際交流・基地政策課
NPO 法人横須賀国際交流協会